

ドイツ語の文法について

—— 動詞的变化の型 ——

小林 繁 吉*

Grammatik im Deutschen für den Anfängerkurs

—— Konjugationstypen der Verben ——

Shigekichi KOBAYASHI*

Abstract

In diesem Aufsatz handelt es sich um Konjugationstypen der Verben in der Grammatik im Deutschen für Anfängerkurse, an denen hauptsächlich Studentinnen und Studenten der japanischen Universität teilnehmen, um die deutsche Sprache zu lernen. Die oben gesagten Typen sind besonders in den nächsten Punkten zu diskutieren. Das heißt:

1. Konjugation im Präsens
2. Konjugation im Präteritum
3. Grundformen des Verbums
4. Konjugation im Konjunktiv I
5. Konjugation im Konjunktiv II
6. Konjugation im Imperativ

Neue Tabellen der schon erwähnten grammatischen Punkte könnten für die Grundstufe des grammatischen Sprachkurses im Deutschen nützlich sein.

Keywords: Konjugation, Typ, Plus, Minus, Grundform

はじめに

この論文では、初級ドイツ文法の学習者にとって理解しにくいと言われているドイツ語基礎文法の文法項目のうち、特に、動詞の変化について考察し、従来の文法とは異なる考え方を出発点に、初学者にも学びやすい形での、より簡便なドイツ文法項目の提示を目指して、新しい動詞的变化の型の考察を試みたものである。これまで、動詞に関する文法項目については、文法項目の見直し作業を行い、その考察結果を発表し、¹⁾ 授業にもそれを活用してきたが、今回は、前回論述した動詞の現在人称変化、動詞

の過去人称変化、動詞の三基本形、動詞の接続法第II式人称変化²⁾を基本的部分から再構築し直し、さらに動詞の接続法第I式人称変化と動詞の命令形を新たに加えて、新しい〈動詞的变化の型〉として再提示してみたいと考えている。それでは、以下に挙げる六つの項目に分けて論述していきたい。

1. 動詞の現在人称変化

厳密に言えば、直説法能動態現在人称変化の規則的な動詞の定義をすることになる。ここでは、語幹の変わらない動詞を規則的現在人称変化動詞とする。表1の①の動詞のように、

平成20年12月15日受理

* 基礎教育研究センター・教授

表1

動詞の規則的現在人称変化語尾				
型	基本型 (語尾ゼロ型)	語尾プラス型	語尾マイナス型	
不定詞 語幹末	① 語幹が②③の条件以外で 終わる動詞	② 語幹が -d, -t などに終わる 動詞	③ 語幹が -s, -ss, -ß, -z など に終わる動詞	①②③ の3類型
ich	-e	-e	-e	ich
du	-st	- <u>est</u>	- <u>t</u>	du
er	-t	- <u>et</u>	-t	er
wir	-en	-en	-en	wir
ihr	-t	- <u>et</u>	-t	ihr
sie	-en	-en	-en	sie
人称 代名詞	基本型 (語尾の増減なし)	3箇所て e をプラス	1箇所て s をマイナス	人称代 名詞

ich	-e	ich	komme	du	- <u>t</u>	du	reist
du	-st	du	kommst	er	-t	er	reist
er	-t	er	kommt	wir	-en	wir	reisen
wir	-en	wir	kommen	ihr	-t	ihr	reist
ihr	-t	ihr	kommt	sie	-en	sie	reisen
sie	-en	sie	kommen				

と人称変化する不定詞が -en で終わる -en 型動詞の人称変化語尾を基本型とし、語尾の増減なしということで、語尾ゼロ型とする。語幹が -d, -t など³⁾で終わる ② タイプの動詞は、

ich	-e	ich	arbeite
du	- <u>est</u>	du	arbeitest
er	- <u>et</u>	er	arbeitet
wir	-en	wir	arbeiten
ihr	- <u>et</u>	ihr	arbeitet
sie	-en	sie	arbeiten

と人称変化し、下線部の語尾が、①の基本型(語尾ゼロ型)に3箇所て e をプラスしているので、〈語尾プラス型〉と命名する。また、語幹が -s, -ss, -ß, -z など⁴⁾で終わる ③ タイプの動詞は、

ich	-e	ich	reise
-----	----	-----	-------

と人称変化し、親称2人称単数 (du) の1箇所て基本型(語尾ゼロ型)より s をマイナスしているので、(語尾マイナス型)と命名することにする。以上のことを、〈表1: 動詞の規則的現在人称変化語尾〉にまとめてある。

また、不定詞が -n で終わっている -n 型動詞の現在人称変化は、〈表2: 不定詞が -n 型動詞の現在人称変化〉のようになり、現在人称変化の規則的な基本型(語尾ゼロ型)動詞は tun 一語のみとなり、現在人称変化の不規則な動詞 sein (すべての人称で語幹が出現しない)を除くと、残るすべては、-ern 動詞、-eln 動詞であり、例えば wandern は一人称単数形でアクセントのない幹母音が脱落することがあったり、脱落せず、基本型(語尾ゼロ型)を保ったりすることがあるので、語尾ゼロ型の〈幹母音脱落・非脱落〉動詞と呼ぶことにする。-eln 型の handeln などは、一人称単数形で、大抵アクセントのない幹母音が脱落するので、語尾ゼロ型の〈幹母

表 2

不定詞が -n 型動詞の現在人称変化						
	基本型 (語尾ゼロ型)		幹母音脱落・非脱落 動詞語尾ゼロ型	幹母音脱落動詞 語尾ゼロ型	すべての人称で 語幹が現れない。	
主 語	tun	人称変化語尾	wandern	handeln	sein	主 語
ich	tue	-e	wand(e)re	handle	bin	ich
du	tust	-st	wanderst	handelst	bist	du
er	tut	-t	wandert	handelt	ist	er
wir	tun	-n	wandern	handeln	sind	wir
ihr	tut	-t	wandert	handelt	seid	ihr
sie	tun	-n	wandern	handeln	sind	sie
特 徴	1 語のみ	基本形	-ern 動詞	-eln 動詞	1 語のみ	特 徴
現在人 称変化	現在人称変化の 規則的な動詞	語尾の増減なし	1 人称単数のみ語幹 が変わることがある。	1 人称単数のみ 語幹が変わる。	現在人称変化の 不規則な動詞	現在人 称変化

音脱落〉動詞と呼ぶことにする。

現在人称変化の不規則な動詞は、単数 2・3 人称における幹母音変化の仕方により、ウムラウト型 (ā → ā 型, ä → ä 型, au → äu 型, ö → ö 型)⁵⁾ と非ウムラウト型に分類できる。〈表 3: 現在人称変化の不規則な動詞の分類表〉記載の通り、ウムラウト型は、

- ① fahren, fallen のように〈基本型(語尾ゼロ型)〉
 - ② blasen, lassen のように〈語尾マイナス型〉
 - ③ raten, halten のように〈語尾プラス・マイナス混在型〉
- の三つに分かれる。⁶⁾ 非ウムラウト型の方は、

表 3

現在人称変化の不規則な動詞の分類表							
分類	ウムラウト型			非ウムラウト型			大分類
下位区分	ā → ā 型/ä → ä 型 au → äu 型/ö → ö 型			ē → ie 型/ě → ě 型 ö → ě 型/ā → ä 型/ē → ī 型/ä → ie 型/ē → ě 型			中分類
語幹末	①: ②③ 以外	②: -s, -ss, -ß	③: -t	①: ②③ 以外	②: -s, -ss, -z	③: -t	小分類
du	fährst fällst	bläst lässt	rätst hältst	sprichst hilfst	isst schmilzt	giltst schiltst	du
er	fährt fällt	bläst lässt	rät hält	spricht hilft	isst schmilzt	gilt schilt	er
型	基本型 (語尾ゼロ型)	語尾マイナス型	語尾プラス・ マイナス型	基本型 (語尾ゼロ型)	語尾マイナス型	語尾プラス・ マイナス型	型
特徴	① に属する au → äu 型は laufen, saufen の 2 語のみ	② に属する o → ö 型は stoßen 1 語の み		① には geben, haben, löschen, nehmen も属す る。	② に属する e → ie 型の動詞は lesen 1 語のみ	③ には treten が属している。	特徴
補 足	u → ü はなし。語幹が -d で終わる laden は一語のみ語尾プラス型なので、枠外表示動詞とした。			① の haben, nehmen ③ の treten そして語幹が -d で終わる枠外表示動詞 werden の 4 つは幹母音のみではなく、語幹全体が変化している。その他の枠外表示動詞は gebären, geschehen である。			補 足

表4

語尾マイナス型動詞 の現在人称変化				話法の助動詞・wissenの現在人称変化									
型	語尾マイナス1型			語尾マイナス2型						語尾マイナス3型		型	
主語	不定詞	reisen	essen	不定詞	sollen	dürfen	können	mögen	wollen	不定詞	müssen	wissen	主語
ich	-e	reise	esse	-	soll	darf	kann	mag	will	-	muss	weiß	ich
du	-t	reist	isst	-st	sollst	darfst	kannst	magst	willst	-t	musst	weißt	du
er	-t	reist	isst	-	soll	darf	kann	mag	will	-	muss	weiß	er
分類		語幹の 変化し ない現 在人称 変化の 規則的 な動詞	語幹 (幹母 音)の 変化す る現在 人称変 化の不 規則な 動詞		語幹の 変化し ない現 在人称 変化の 規則的 な動詞	語幹(幹母音) の変化する 現在人称変化の 不規則な動詞					語幹(幹母音) の変化する 現在人称変化の 不規則な動詞	分類	
補足	この分類表ではsollenは枠外表示が適切かもしれない。			現在人称変化の規則的なsollenを除いて、単数形全体の現在人称変化が不規則な、語幹(幹母音)の変化する動詞で、〈非ウムラウト型〉動詞である。									補足

- ① sprechen, helfen のような〈基本型(語尾ゼロ型)〉⁷⁾
 - ② essen, schmelzen のような語尾マイナス型⁸⁾
 - ③ gelten, schelten のような語尾プラス・マイナス混在型⁹⁾
- の三つに分類される。¹⁰⁾

単数形全部が不規則な(語幹が変わる→幹母音の変化)動詞である話法の助動詞・wissen¹¹⁾は、表4のように、kommen や lernen の典型的規則的人称変化語尾を基準にすると、語尾マイナス2型(単数の1・3人称で2箇所語尾が消失している。)と語尾マイナス3型(単数の1・3人称で語尾が消失、単数の2人称で語尾が脱落し、計3箇所減少〈マイナス〉している。)に分類される。今まで、reisen や、単数の2・3人称でのみ語幹の変化(幹母音の変化)する動詞について論述する場合は、単に語尾マイナス型と呼んできたessenのような人称変化語尾をもつ動詞は、ここでの、より詳細な分類法に従えば、〈語尾マイナス1型:2人称単数1箇所語尾sが脱落〉と再定義することになる。ただし、sollenのみ〈語尾マイナス2型〉の動詞ではあるが、語

幹の変化していない、規則的現在人称変化動詞ということになる。幹母音の変化する動詞イコール現在人称変化の不規則な動詞ということではなく、語幹の変化している動詞イコール現在人称変化の不規則な動詞ということになれば、不定詞語尾-n型動詞のwandern, handelnなどの-ern動詞、-eln動詞が1人称単数形において、アクセントのない弱音eが脱落した語幹は、語幹そのものが変化したということになり、-ern動詞は、あるときは規則的現在人称変化をする動詞、あるときは不規則変化をする〈現在人称変化の規則的または不規則な動詞〉ということになる。また-eln動詞は〈現在人称変化の不規則な動詞〉ということになる。¹²⁾ 以上のように考えた場合、従来の現在人称変化形の規則性の定義を変更したことになる。¹³⁾ 学習者には、幹母音の変化というよりも語幹の変化という方がわかりやすいようである。¹⁴⁾

2. 動詞の過去人称変化

過去人称変化は〈表5:過去人称変化表〉の通り、① kommen の過去形

表 5

過去人称変化表					
過去基本形の語尾	①: ②③④以外の語尾で終わるもの	②: -e	③: -s, -ß, -sch, -z	④: -d, -t	過去基本形の語尾
ich	—	—	—	—	ich
du	-st	-st	-est	-(e)st	du
er	—	—	—	—	er
wir	-en	-n	-en	-en	wir
ihr	-t	-t	-t	-et	ihr
sie	-en	-n	-en	-en	sie
人称代名詞 主語	②③④以外の語尾	-e	-s, -ß, -sch, -z	-d, -t	人称代名詞 主語
型	基本型 (語尾ゼロ型)	語尾マイナス型	語尾プラス1型	語尾プラス2型	型

ich kam wir kamen
du kamst ihr kamt
er kam sie kamen

称単数と親称2人称複数の2箇所では語尾を追加することができるという理由からである。したがって、語尾の型による分類は4タイプということになる。

が〈基本型 (語尾ゼロ型)〉となり、② haben の過去形

ich hatte wir hatten
du hattest ihr hattet
er hatte sie hatten

が〈語尾マイナス型〉、③ essen の過去形

ich aß wir aßen
du aßest ihr aßt
er aß sie aßen

が〈語尾プラス1型: 親称の2人称単数で語尾を追加〉、④ treten の過去形、

ich trat wir traten
du trat(e)st ihr tratet
er trat sie traten

lern en lern te ge lern t
red en red ete ge red et

Aen Ate geAt
Aen Aete geAet

となる。¹⁶⁾ 〈異形語幹型〉動詞は、

が〈語尾プラス2型〉となる。④は親称の2人

表6

不定詞が -en で終わる -en 型動詞の三基本形の表								
型の名称	分類基準	三基本形の一般的形式	-en 不定詞形	-te 過去形	— 過去形	ge-t 過去分詞形	ge-en 過去分詞形	動詞の例示
同形語幹型	三基本形の語幹がすべて同形	弱変化(規則)動詞・話法の助動詞2語	Aen	Ate Aete		geAt geAet		lernen wollen reden
混在語幹型 (単一異形型・双同形型 〈双同形の一つは過去分詞形の語幹〉)	不定詞の語幹のみ他の基本形の語幹と異なる。	混合変化動詞・話法の助動詞4語	Aen	Bte		geBt		bringen können
		強変化動詞 A-B-B	Aen		B		geBen	fliegen schreiben
	過去形の語幹他と異なる。	強変化動詞 A-B-A	Aen		B		geAen	fahren lesen
異形語幹型	三基本形の語幹がすべて異形	強変化動詞 A-B-C	Aen		B		geCen	gehen nehmen werden
補足	haben のみ Aen-Bte-geAt となり三基本形の例外パターンとなる。また, sollen, wollen は同形語幹型に属するものとする。話法の助動詞が不定詞と同形の過去分詞のとき Aen-Bte-Aen となり例外パターンとなる。melken は Aen-Ate-geBen のときは例外パターンとなる。混合変化動詞の senden, wenden は同形語幹型と混在語幹型があり, 枠外表示動詞である。このような動詞は backen など数語ある。werden は異形語幹型に属し, 受動の助動詞の三基本形は Aen-B-Cen となり, 例外パターンとなる。							

Aen	B	geCen		Aen	B	geBen
geh en	ging	ge gang en		flieg en	flog	ge flog en
nehm en	nahm	ge nomm en		schreib en	schrieb	ge schrieb en

となる。¹⁷⁾ 〈混在語幹型〉動詞は, 不定詞の語幹のみ(他の三基本形の語幹と)異なるタイプの bringen, fliegen など¹⁸⁾

と, 過去形の語幹(過去基本形)のみ他の三基本形の語幹と異なるタイプ

Aen	Bte	geBt		Aen	B	geAen
bring en	brach te	ge brach t		fahr en	fuhr	ge fahr en
könn en	konn te	ge konn t		les en	las	ge les en

に下位区分される。¹⁹⁾

と,

4. 動詞の接続法第I式人称変化

接続法第I式の現在人称変化形は, 〈表7: 接続法第I式現在人称変化表〉記載の通り, 不定詞

表 7

接続法第 I 式現在人称変化表									
不定詞語尾 -en 型動詞				不定詞語尾 -n 型動詞					
人称代名詞 主語	人称変化語尾	haben	werden	人称変化語尾	tun	wandern	handeln	人称変化語尾	sein
ich	-e	habe	werde	-e	tue	wand(e)re	handle	-	sei
du	-est	habest	werdest	-st	tust	wanderst	handelst	-(e)st	sei(e)st
er	-e	habe	werde	-e	tue	wand(e)re	handle	-	sei
wir	-en	haben	werden	-n	tun	wandern	handeln	-en	seien
ihr	-et	habet	werdet	-t	tut	wandert	handelt	-et	seiet
sie	-en	haben	werden	-n	tun	wandern	handeln	-en	seien
補 足	不定詞語尾 -en 型動詞は上記のように例外なく規則的に変化する。-en 型動詞すべてに通用。			sein を除く -n 型動詞のパターン	tun は規則的に変化する。1 語のみ。	幹母音脱落可能性あり。-ern 動詞	単数 2 箇所幹母音脱落。-eln 動詞	単数 1・3 人称で語幹のみになり語尾がないなど唯一の例外。sein 一語のみ。	

語尾 -en 型動詞では、例外なく規則的に変化する、基本型（語尾ゼロ型）となる。不定詞語尾 -n 型動詞 tun の変化が基本型（語尾ゼロ型）となり、wandern, handeln などの -ern 動詞、-eln 動詞も人称変化語尾は基本型（語尾ゼロ型）となるが、wandern タイプの -ern 動詞は、単数 1・3 人称の 2 箇所アクセントのない幹母音 e が脱落することがあり、handeln タイプの -eln 動詞は、単数 1・3 人称の 2 箇所アクセントのない幹母音 e が脱落する。したがって、語幹の変わる動詞イコール不規則動詞と定める（定義する）と、ich wandre, er wandre ; ich handle, er handle は不規則な形ということになる。sein 動詞は単数 1・3 人称で語尾のない語幹のみの形になり、〈語尾プラス・マイナス混在型〉の動詞となる。²⁰⁾

5. 動詞の接続法第 II 式人称変化

接続法第 II 式現在人称変化形は、〈表 8: 接続法第 II 式現在人称変化表〉記載の通り、過去基本型の語尾が e でない、sein, gehen の過去基本型 war, ging に接続法第 II 式の人称変化語

尾

ich	-e	wir	-en
du	-est	ihr	-et
er	-e	sie	-en

を加え、ウムラウト可能な母音をウムラウトさせた接続法第 II 式基本形 wäre, ginge をもつ動詞を基本型（語尾ゼロ型）とし、過去基本形の語尾が e である、werden, sagen, handeln の過去基本形 wurde, sagte, handelte に

ich	-	wir	-n
du	-st	ihr	-t
er	-	sie	-n

を加えた接続法第 II 式基本形 würde, sagte, handelte をもつ動詞を〈語尾マイナス型〉として二つに分けている。接続法第 II 式の現在人称変化形は比較的シンプルな形になっている。²¹⁾

表8

接続法第II式現在人称変化表							
過去基本形の語尾		語尾eではない		語尾eである			
ウムラウトの有無		ウムラウトする	ウムラウトしない	ウムラウトの有無	ウムラウトする	ウムラウトしない	
型	基本型(語尾ゼロ型)			語尾マイナス型			
人称代名詞 主語	人称変化語尾	war	ging	人称変化語尾	wurde	sagte	handelte
		過去基本形	過去基本形		過去基本形	過去基本形	過去基本形
ich	-e	wäre	ginge	—	würde	sagte	handelte
du	-est	wärest	gingest	-st	würdest	sagtest	handeltest
er	-e	wäre	ginge	—	würde	sagte	handelte
wir	-en	wären	gingen	-n	würden	sagten	handelten
ihr	-et	wäret	ginget	-t	würdet	sagtet	handeltest
sie	-en	wären	gingen	-n	würden	sagten	handelten
人称代名詞 主語	人称変化語尾	不定詞	不定詞	人称変化語尾	不定詞	不定詞	不定詞
		sein	gehen		werden	sagen	handeln
少数の例外的 枠外表示動詞あり	接続法第II式 基本形	wäre	ginge	接続法第II式 基本形	würde	sagte	handelte

6. 動詞の命令形

命令形を概観すると、〈表9: 命令形の変化表〉の通りになる。²²⁾ 不定詞の語幹が -en で終わる動詞は、幹母音が e → ie, e → i に変わる動詞の du に対する命令形において Sprich! のように, sprechen の語幹(幹母音)が変化するのであるが, werden の du に対する命令形だけがその唯一の例外になっている。不定詞の語幹が -n で終わる動詞は, Tue! Tut! Tun Sie! という tun の命令形三形を標準的(基本的)なものと考えれば, ändern など -ern 動詞の du に対する命令形で, アクセントのない幹母音 e の脱落があり, Ändre! となることは不規則ということになる。また, sammeln など -eln 動詞の du に対する命令形で, アクセントのない幹母音 e の脱落があり, Sammle! と不規則な形になる。Sei! Seid! Seien Sie! は三形のいずれも, tun の命令形を標準形(基準となる形)とする

と, 不定詞 -n 型の例外的に不規則な形になっている。²³⁾

まとめ

以上論述してきたことを総括すると以下のようになる。

1. 動詞の現在人称変化

- (1) 基本型(語尾ゼロ型)動詞
- (2) 語尾プラス型動詞と語尾マイナス型動詞
- (3) 幹母音脱落型動詞
- (4) ウムラウト型動詞と非ウムラウト型動詞

表1: 動詞の規則的現在人称変化語尾

表2: 不定詞が -n 型動詞の現在人称変化

表3: 現在人称変化の不規則な動詞の分類表

表4: 話法の助動詞・wissen の現在人称変化

表 9

命令形の変化表							
不定詞語尾の型		特 徴	du に対する命令形	ihr に対する命令形	Sie に対する命令形	動詞の例	補 足
-en	-n						
Aen		下記の特徴をもつ動詞以外の動詞	A! Sag! Ae! Sage!	At! Sagt!	Aen Sie! Sagen Sie!	sagen waschen	語幹末 -ig の動詞は du で -e!
Aen		語幹が -d, -t で終わる動詞	Ae! Rede!	Aet! Redet!	Aen Sie! Reden Sie!	reden antworten	語幹末 -chn, -ffn 等の動詞含む
Aen		幹母音が e → ie, e → i に変わる動詞	B! Sprich!	At! Sprecht!	Aen Sie! Sprechen Sie!	sprechen lesen	sehen は Sieh! と Siehe! の両形
Aen		1 語のみ	Werde!	Werdet!	Werden Sie!	werden	e → i 型動詞の親称単数 2 人称の例外
	An	-ern 型動詞	Ae! Ändere! Be! Ändre!	At! Ändert!	An Sie! Ändern Sie!	ändern wandern	アクセントのない幹母音の脱落
	An	-eln 型動詞	Be! Handle!	At! Handelt!	An Sie! Handeln Sie!	handeln sammeln	アクセントのない幹母音の脱落
	An	1 語のみ	Tue!	Tut!	Tun Sie!	tun	tun は Ae! At! An Sie! となる
	An	1 語のみ	Sei!	Seid!	Seien Sie!	sein	sein は -n 型動詞の例外

2. 動詞の過去人称変化

- (1) 基本型 (語尾ゼロ型) と語尾マイナス型
- (2) 語尾プラス 1 型と語尾プラス 2 型

表 5: 過去人称変化表

3. 動詞の三基本形

- (1) 同形語幹型
- (2) 異形語幹型
- (3) 混在語幹型

表 6: 不定詞が -en で終わる -en 型動詞の三基本形の表

4. 動詞の接続法第 I 式人称変化

- (1) 不定詞語尾 -en 型動詞と -n 型動詞
- (2) 基本型 (語尾ゼロ型) と語尾プラス・マイナス混在型

表 7: 接続法第 I 式現在人称変化表

5. 動詞の接続法第 II 式人称変化

- (1) 過去基本形の語尾とウムラウトの有無

(2) 基本型 (語尾ゼロ型) と語尾マイナス型
表 8: 接続法第 II 式現在人称変化表

6. 動詞の命令形

- (1) 不定詞語尾の型
- (2) e → i(e) 型幹母音変化動詞

表 9: 命令形の変化表

以上、〈動詞的变化の型〉を新たに 6 つの項目、9 つの表にまとめて再提示することによって、ドイツ語基礎文法における〈動詞的变化〉の理解が、学習者にとって、より容易なものになると考えている。そして、このような文法項目再提示の可能性を追求して得られた表を効果的に活用することによって、初級基礎文法の授業を改善していく方向性を見出すことができると思っている。今後も文法項目簡略化を含む検討、考察を不断につづけていくことが有用で不可欠なことと考えている。²⁴⁾

注

- 1) 拙論参照。
- 2) 小林 (2008) S. 115 ff.
- 3) 語幹が -d, -t で終わる動詞の他に, 語幹が -m, -n で終わり, その前が h, l, r 以外の子音になっている動詞が含まれる。
- 4) 語幹が -s, -ss, -ß, -z で終わる動詞の他に, -tz, -x で終わる動詞が含まれる。
- 5) ウムラウト可能な母音 a, o, u, au のうち, u → ü 型の動詞はない。
- 6) laden 一語のみ, <語尾プラス型>動詞になるので, 例外的扱いの枠外表示動詞として表3には記述していない。laden の現在人称変化は以下のようになる。

ich	lade	wir	laden
du	lädst	ihr	ladet
er	lädt	sie	laden

すなわち,

ich	-e	wir	-en
du	-st	ihr	-et
er	-t	sie	-en

となり, 複数2人称(親称)で語尾が加わっている。

- 7) sprechen, helfen のような基本型(語尾ゼロ型)に属している動詞には, haben, geben, löschen, nehmen がある。haben は hāb → hǎ に, nehmen は nehm → nimm に幹母音だけではなく, 語幹全体が変化している。また, geben は geb → gib に, löschen は lösch → lǐsch に, ö → ĩ に変化している。
- 8) essen, schmelzen のような<語尾マイナス型>に属している特殊な動詞として lesen がある。

ich	lese	wir	lesen
du	liest	ihr	lest
er	liest	sie	lesen

で, 語幹が -s(s)タイプで終わる e → ie 型唯一の動詞である。

- 9) gelten, schelten のような<語尾プラス・マイナス混在型>に属する特殊な動詞として treten がある。語幹が tret → tritt と変化しており, e → i という幹母音だけではなく, 語幹全体が変化している。
- 10) 注6)と注8)で記した haben, nehmen, treten の他に, 語幹が -d に終わり, <語尾プラス・マイナス混在型>に属する werden も, wĕrd → wĭr または wĭrd と語幹が変化していて, e → i

型の幹母音だけではなく語幹全体の変化している動詞となる。また, その他に例外的なものとして表に記載していない枠外表示動詞 gebären, geschehen があり, 単数の現在人称変化は下記のようになる。

ich	gebäre
du	gebierst
sie	gebierst

(3人称単数の sie のみ主語)

es	geschieht
----	-----------

(3人称単数の es のみ主語)

いずれも単数3人称で Sie gebiert. Es geschieht. となり, 特殊変化である。

- 11) sollen は<語尾マイナス2型>動詞であるが, この論文では, 語幹の変化していない動詞を規則動詞と決めた(定義した)ので, sollen は規則動詞ということになる。なお, sollen 以外の語法の助動詞の幹母音の変化は ũ → ä, ö → ä, ö → ā, ö → ĩ, ũ → ũ であり, wissen は i → ei となり, <非ウムラウト型>動詞に属する。
- 12) この論文では, 現在人称変化の規則的な動詞を lernen, kommen, arbeiten, reisen などのタイプの他に, sollen 一語を加え, tun 一語を加え, wandern のような -ern 型動詞は, あるときは規則的人称変化をし, あるときは不規則な人称変化をする両義性をもつ中間形態の動詞とした。したがって, 現在人称変化の不規則な動詞は, 従来の fahren, sprechen, sehen, sein, haben, werden などのタイプの動詞の他に, 語法の助動詞(sollenのみを除く), wissen, そして handeln のような -eln 型の動詞が含まれることになる。現在人称変化の規則性を, 語幹の変化・無変化ということでも再定義したのである。
- 13) 現在人称変化の規則性, 不規則性を説明する際に, 不規則動詞の幹母音の異同, 幹母音の変化のみに注目させるよりも, 語幹の変化, 語幹全体の変化という文法解説の方が, 学習者である学生にとって理解しやすかったという教室内での実体験に基づいて文法事項の再考察を行ったのが, 現在人称変化の不規則な動詞の定義を, 従来の学問的・言語学的文法記述を取り入れないで, 教室文法, 学校文法の枠組みで再構築しようと思いついた経緯である。
- 14) 注9)で指摘したように, haben, nehmen, treten, werden の4つの動詞は, 幹母音の変化だけではなく, 語幹全体が変化する動詞であった。それに加えて, bersten という動詞も特異な変化をする現在人称変化の不規則な動詞で

ある。

ich	berste	wir	bersten
du	birst	ihr	berstet
er	birst	sie	bersten

となり、表3 記述不能な枠外表示動詞である。これが特殊変化動詞であることを指摘しておく。

- 15) ここでいう〈混在語幹型〉の動詞の三基本形は、

Aen	Bte	geBt
<u>bring</u> en	<u>brach</u> te	ge <u>brach</u> t

Aen	B	geBen
<u>flieg</u> en	<u>flog</u>	ge <u>flog</u> en

Aen	B	geAen
<u>fahr</u> en	<u>fuhr</u>	ge <u>fahr</u> en

の三つのタイプのいずれかになるのであるが、いずれにしても、共通しているのは、過去分詞と他の三基本形の語幹の一つは必ず同形になるということである。つまり、過去基本形の語幹（または過去基本形）イコール過去分詞の語幹か、あるいは、不定詞の語幹イコール過去分詞の語幹になるということである。不定詞の語幹と過去基本形の語幹が等しくなるのは、

<u>melk</u> en	<u>melk</u> te	ge <u>molk</u> en
<u>schind</u> en	<u>schind</u> ete	ge <u>schund</u> en

の二語ぐらいのものであり、

Aen	Ate	geBen
Aen	Aete	geBen

の形はそれぞれ唯一の例外と考えてもよい。

- 16) sollen と wollen は

Aen	Ate	geAt
-----	-----	------

となり、〈同形語幹型〉動詞であり、他の話法の助動詞 dürfen, können, mögen, müssen とは異なるタイプに属する。

- 17) werden の三基本形は

<u>werd</u> en	<u>wurde</u>	ge <u>word</u> en
----------------	--------------	-------------------

となり、Aen-B-geCen タイプの〈異形語幹型〉動詞となる。

- 18) sollen, wollen は不定詞と同形の過去分詞の場

合でも、

<u>soll</u> en	<u>soll</u> te	<u>soll</u> en
Aen	Ate	Aen

となり、〈同形語幹型〉動詞となるが、können のような〈混在語幹型〉動詞の場合は、

<u>könn</u> en	<u>konn</u> te	ge <u>konn</u> t
Aen	Bte	geBt

<u>könn</u> en	<u>konn</u> te	<u>könn</u> en
Aen	Bte	Aen

となり、〈混在語幹型〉動詞ではあるが、下位区分のタイプが別になる。

- 19) 表6のすべての三基本形の型、

〈同形語幹型〉

Aen	Ate	geAt
Aen	Aete	geAet

〈混在語幹型〉

Aen	Bte	geBt
Aen	B	geBen
Aen	B	geAen

〈異形語幹型〉

Aen	B	geCen
-----	---	-------

の他に、注14)で指摘した melken, schinden の

Aen	Ate	geBen
Aen	Aete	geBen

があり、mahlen, backen は

<u>mahl</u> en	<u>mahl</u> te	ge <u>mahl</u> en
<u>back</u> en	<u>back</u> te	ge <u>back</u> en
Aen	Ate	geAen

となる。また、〈混在語幹型〉動詞で特殊変化をする haben は

<u>hab</u> en	<u>hat</u> te	ge <u>hab</u> t
Aen	Bte	geAt

であり、表6の表示から外れるものは少数ながらある。受動の助動詞 werden の三基本形は、

<u>werd</u> en	<u>wurde</u>	<u>word</u> en
----------------	--------------	----------------

Aen B Cen

となり、これは例外的変化である。原則として、複合動詞（分離・非分離動詞など）の三基本形の記述を除外したので、教科書巻末の三基本形によく掲載されている非分離動詞を三つ挙げてここで確認しておく。

verlier	en	verlor	en	verlor	en
Aen	B	Ben			

vergess	en	vergaß	en	vergess	en
Aen	B	Aen			

beginn	en	begann	en	begonn	en
Aen	B	Cen			

となる。原則として、複合動詞については、表6では取り扱っていないことを改めて述べておく。

- 20) seinの接続法第I式現在人称変化形は、単数1・3人称で語尾が消失し、複数（単数2人称が加わることもある。）で増加し、従来の文法上の考え方では、不規則変化する動詞ということになるが、これまでのこの論文の立論の主旨から言えば、規則的変化をしていることになる。すなわち、tunの人称変化語尾を基準として語尾が異なっているだけであり、語幹は変化していないので〈語尾プラス・マイナス混在型〉の規則的現在人称変化動詞ということになる。
- 21) 接続法第II式現在人称変化形の例外的動詞として、helfen, sterbenがあり、それぞれ接続法第II式基本形は, hülfe, stürbeとなり、例えば hülfe の現在人称変化は、

ich	hülfe	wir	hülfen
du	hülfest	ihr	hülftet
er	hülfe	sie	hülfen

となる。その他に、brennen, nennen, schwimmen, gewinnen などがあり、それぞれ、接続法第II式基本形が、brennte, nennte, schwöme, gewönne となり、不規則である。

- 22) 語幹が -d, -t で終わる動詞の他に、語幹が -chn, -ffn, -tm など で終わる動詞がある。例えば、rechnen は

Rechne!	Rechnet!	Rechnen Sie!
---------	----------	--------------

öffnen は		
Öffne!	Öffnet!	Öffnen Sie!

atmen は

Atme! Atmet! Atmen Sie!

となる。

- 23) tun の命令三形を標準形とすると、sein は三つの形すべてが不規則である。

tun の命令形:

Ae!	At!	An Sie!
Tue!	Tut!	Tun Sie!

sein の命令形:

A!	Ad!	Aen Sie!
Sei!	Seid!	Seien Sie!

- 24) 小林 (2008) S.115 ff. の表を根本的に改良したものが、この論文の9つの表のうちの7つの表(表1, 表2, 表3, 表4, 表5, 表6, 表8)である。

参考文献

- Duden: Die Grammatik. Mannheim 2006.
 Engel, Ulrich: Deutsche Grammatik. Heidelberg 1996.
 Helbig, G./Buscha, J.: Deutsche Grammatik. Ein Handbuch für den Ausländerunterricht. Leipzig 1975.
 Liebsch, H./Döring, H.: Deutsche Sprache. Handbuch für den Sprachgebrauch. Leipzig 1976.
 Schulz, D./Griesbach, H.: Grammatik der deutschen Sprache. München 1972.
 Schulz, H./Sundermeyer W.: Deutsche Sprachlehre für Ausländer. München 1965.
 Schwarz, H.-Gerhard: Deutsche Grammatik. Köln 1985.
 Wahrig: Deutsches Wörterbuch. München 1972.
 ハラルト・ヴァインリッヒ著/脇坂豊編: テキストからみたドイツ語文法 (三修社) 2003.
 E. ヘンツェル・H. ヴァイト著/西本美彦・高田博行・川崎靖訳: ハンドブック・現代ドイツ文法の解説 (同学社) 1995.
 ヴィルヘルム・K. ユーデ著/稲木勝彦訳: ユーデ・基本ドイツ文法 (三修社) 1966.
 岡田公夫・清野智昭: 基礎ドイツ語 文法ハンドブック (三修社) 2002.
 川島淳夫ほか: ドイツ言語学辞典 (紀伊國屋書店) 1994.
 小林繁吉: ドイツ語の文法について 一新しい形容詞の格変化表と動詞の現在人称変化表—(八戸工業大学紀要第21巻) 2002.

ドイツ語の文法について (小林)

- 小林繁吉：ドイツ文法概念について(八戸工業大学紀要第24巻)2005.
- 小林繁吉：ドイツ文法について(八戸工業大学紀要第27巻)2008.
- 在間 進：〔改訂版〕詳解ドイツ文法(大修館書店)2006.
- 在間 進ほか：新アクセス独和辞典(三修社)2004.
- 相良守峯：ドイツ語学概論(研究社)1950.
- 相良守峯：ドイツ文法(岩波書店)1971.
- 桜井和子：改訂ドイツ広文典(第三書房)1995.
- 佐藤通次：ドイツ広文典(白水社)1970.
- 関口存男：関口・初等ドイツ語講座〈上巻〉(三修社)1976.
- 関口存男：関口・初等ドイツ語講座〈中巻〉(三修社)1982.
- 関口存男：関口・初等ドイツ語講座〈下巻〉(三修社)1982.
- 関口存男：関口・新ドイツ語大講座(三修社)1974.
- 武田昌一・吉田次郎：現代ドイツ文法(白水社)1969.
- 田中康一：新講ドイツ文典(南江堂)1956.
- 常木 実：わかりやすいドイツ語入門(朝日出版社)1977.
- 日本独文学会ドイツ語学委員会：ドイツ語教育の基本的諸問題 1978.
- 中島悠爾・平尾浩三・朝倉 巧：改訂版必携ドイツ文法総まとめ(白水社)2003.
- 根本道也ほか：新アポロン独和辞典(同学社)2007.
- 信岡資生ほか：クラウン独和辞典(三省堂)2005.
- 橋本文夫：詳解ドイツ文法(三修社)1971.
- 宮内敬太郎：速習現代ドイツ語(郁文堂)1990.
- 山川丈平：やさしいドイツ語入門(郁文堂)1979.
- 義則孝夫・吉田正勝：大学最新ドイツ語教本(三修社)1967.